

2012年9月のアンガージュマンの予定

利用は会員となり、フリースペース、キックオフプロジェクト、相談・コーディネート、学習サポート等をお選び下さい。まずは電話などでお問い合わせ下さい。見学も大歓迎！

月(Mon) 火(Tue) 水(Wed) 木(Thu) 金(Fri) 土(Sat) 日(Sun)

書籍のご注文は 046-804-7883 はるかぜ書店まで。

売上は就労支援事業の運営費となります。ご協力下さい。
インターネットでの注文は「e-hon」のM書店を「はるかぜ書店」に登録して、ご利用下さい。
自宅受取でも、手数料を除いた売上がはるかぜ書店に計上される仕組みです。

3 14:00 スマートーク 学習サポート	4 14:00 カラオケ 学習サポート	5 12:00 昼食会(300円) 14:00 商業講座 学習サポート	6 学習サポート	7 11:30 農業体験(長井) 学習サポート	8 11:00~15:00 サポートプラザ @桜木町 14:00~16:00 保護者会	9 学習サポート
10 学習サポート	11 山形物産市 (はるかぜ書店前) 学習サポート	12 12:00 昼食会(300円) 13:30 ボランティア ミーティング 学習サポート	13 14:00 マンガを読む 学習サポート	14 13:00 お菓子作り (パンケーキだよ) 学習サポート	15 学習サポート	16 学習サポート
17 学習サポート	18 学習サポート	19 12:00 昼食会(300円) 14:00 ラッピング講座 学習サポート	20 学習サポート	21 11:30 農業体験(長井) 学習サポート	22 学習サポート	23 学習サポート
24 14:00 スマートーク 学習サポート	25 学習サポート	26 12:00 昼食会(300円) リエゾン団 山形物産宅配 学習サポート	27 学習サポート	28 学習サポート	29 学習サポート	30 学習サポート

編集後記

めまにていパー
め食した。ましバ
。欲の打。ましベ
。残暑の方。上げキ
を心配の居酒屋で、ゆるゆると肉を焼
り切りたいので、睡眠時間を確保し
たいところ。す。伊シイ

今号より、アドレスの分かる方にはメールで通信を送付いたします。
これにより、約25,000円/月の経費削減となります。ご理解の上、ご了承下さい。
メールでの受取が可能な方は、アドレスをお知らせ下さい。宜しくお願い致します。

今月のボランティア募集

イベント	日付	定員	主な活動内容
フリースペース	土日祝日除く	5名	話やゲームの相手、ともに過ごす
物産市	9/11(火)	3名	物品販売、品物陳列、チラシ配布
物産宅配	9/26(水)~28(金)	3名	検品、仕分け、梱包、配達
昼食会	9/5, 12, 19, 26(水)	3名	調理、盛りつけの補助
夜のフリースペース	8/7, 14, 21, 28(金)	5名	ともに過ごす
通信発送作業	9/28(金)	5名	通信の折り、封入、封止め
下校時の防犯	平日14:40~16:00	2名	町内の巡回、見守り

参加希望の方は、事前にご連絡下さい。 046-801-7881(担当:石川隆博)

2012年(平成24年)

9月1日 発行

アンガージュマンとはフランス語で社会参加という意

Le Engagement

engagement
Eyokosuka

NPO法人アンガージュマン・よこすか

発行所：〒238-0017神奈川県横須賀市上町2-4 電話：046-801-7881

http://engagement.angelicsmile.com/ 発行責任者：島田徳隆 編集責任者：石井利衣子

http://blog.canpan.info/engagement/(ブログ) engagement@angelicsmile.com(メール)

第103号

大盛況！ 夏だ！肉だ！B・B・Q！ (バーベキュー)

活動の理解へ

NPOの活動は理解できるし応援したい、でも実際に関わるにはちょっとハードルが高い。このようなお話を直接、また他団体からも聞く。そのギャップをどのようにして埋めるか。

先だつての理事会で長野氏が今年度の事業に、法人理解のための企画として提案してくれた。理解者を増やすための企画第一弾という位置づけと言える。

長野氏には今回多大なご支援とご協力をいただいた。誌面を借りて御礼申し上げます。

「アンガージュマンにくまつり」

8月26日午後、横浜市金沢区にある野島公園にて午後2時から6時まで「にくまつり」と称してバーベキューを行った。子どもと若者は肉を食べ、というスローガンのもと、大量の肉が用意された。前々日に山ほど買い込み、当日の朝ひたすら仕込んでバラエティに富む肉料理を提供した。

バーベキューブースを2つ借り、40名の利用を見込んだが、

当日の参加者は総勢41名。金沢虹の会から2名、他団体(SCMN)から1名、横浜市大の学生1名、親3名、利用者お友達2名のほか卒業生やネクストスタッフ、本法人役員などなど。ご多忙の中、また残暑厳しい折、お集まりいただき感謝、感謝。



2つのブースは自然に大人と子ども・若者に分かれたが、肉の無くなるペースが全く違う。大人たちが歓談しながら飲み食いをする一方、子ども・若者



ブースでは肉が焼けるそばから無くなっていく。時半ばで「おなか一杯」「もう食べられない」と言ってシートで座る輪が出来始める。それでも、最後に大きな鮭をちゃんちゃん焼きにするとあっと言う間に無くなってしまった。

コミュニケーションの場

普段、顔を合わせていてもコミュニケーションまでは...という子供同士、若者同士、または異年齢同士が語り合ったりする光景は見ていて面白い。こんなきっかけで人は変化するのかもしれない、とも思う。



今後も色々な機会を設けるので、ぜひ遠慮なく足を運んでほしい。ブログにも当日の様子が掲載されているのでお読みいただきたい。(島田徳隆)

坂の上のたはごと 島田徳隆

久しぶりに復活したこのコラム。他愛ないことを書いてきた中に、きちんと主旨はあり。今回は巻頭記事を書きすぎ、小さい字になったことをお詫びする。虫眼鏡を片手に楽しみあれ。当方も書くことを待ち望んでいた。

4年前のコラムを読み返してみると、同窓会のこと載っていた。随分楽しんだようで、4年後の次回を待ち望んでいた様子。ということで、今年は7月に大学(専攻)の8月に高校(学年)の同窓会に出席してきた。大学の同窓会は恩師の還暦記念の個展を楽しみ、高校の方は規模が大きく旧交を温めるには少々時間不足だった。朝まで痛飲したが...

どちらもモラトリアムの期間でありやる気のない生徒・学生であったため、恩師にはかなり迷惑をかけたし叱責もされた。しかしながら、時が経つと自分で嫌になるほど図々しく変化するものだ。過去のことはサッパリ洗い流し、新たな関係が出来ることはまた面白く、ワクワクする。人と人との出会いは常に変化していく。...でも、あんまり変わらないんだなあ。

あばうと フェリーで小旅行

今月のあばうとは一週間のお休みを挟んでO君とNちゃんとAちゃんを連れて千葉へ小旅行。久里浜港からフェリーに乗って金谷港へ、金谷港からは送迎車で浜辺の湯に到着。

まずは今回の目的のお昼ご飯タイム。みんなお腹を空かしていたので、おいしい千葉の新鮮な地魚料理を黙々と食べていました。

食後の休憩の後は海へ、誰一人水着がないにもかかわらず程よく暖かな海にズボンやスカートのギリギリまで入って楽しんでいました。帰りのフェリー乗り場では出発まで思う存分お土産選びをして、短い時間でしたが千葉を大満喫でき夏のいい思い出になったのではないのでしょうか。

来月のキャンプではもっと多くの思い出づくりができるといいなあ。(鈴木篤志)

みんなの感想は…

- ・お土産では、たくさん悩んで買い過ぎて破産した！！(泣)
- ・ピワとミルクのソフトクリーム最高でした！！
- ・おいしかった！ たのしかった！！ おもしろかった！！
- ・お昼のタイ？ が新鮮で弾力があっておいしかった。
- ・海でクラゲが大量発生！それを投げるNちゃんには驚いた(笑)
- ・露天風呂は貸切状態でスゴク気持ち良くて満足した。
ただサウナの順番を間違えた(汗)あと、コーヒー牛乳がなかったのがショックだったけど、ラムネのビー玉が取れたから、結果オーライかな(笑)



ネクスト 学びのきっかけ

いつもドリルをテキパキとこなすTちゃん。そんなTちゃんは、ある日の授業で終了5分前になったとき、「もう終わりにしてもいいかな？」と私に尋ねました。ハードな授業展開に、もうお腹いっぱい？ やっぱり疲れたのかな？

勉強は生徒本人の課題であるとの立場をとれば、我々講師は、そのお手伝いをしているにすぎません。だから、授業を嫌がるのも、休憩をとるのも、早めに切り上げるのも、ほんとうは生徒の自由。

でも、貴重な授業時間を削って、それで本当にいいの？ 週にたった一度の90分間、そんなにたくさんのは教えてあげられないけど、次の授業までの一週間の学びのきっかけになりたい、それまで元気よく日々をすごせますようにと、願いを込めています。

そうそう、前述のTちゃんの問題に対する私の回答は、「でも俺は、仕事をきっちりやり切りたいんだよね。」結局、早く終えなくてごめんなさい。授業へのご協力感謝いたします。(戸ノ岡哲也)

ボランティア 夏の市民活動ボランティア体験 受け入れました。

今夏も「夏の市民活動・ボランティア体験」の参加団体となり、7月14日～8月31日までの期間中に、中学1年生を含む5人の方々が活動してくれました。また8月27日～9月29日まで県青少年センター主催「ボランティア体験講座」での受講生の受入団体にもなっています。

外部の方々にお越しいただくのは、かえって手間がかかることでもありますが、日頃の活動を見つめ直すきっかけを与えてくれたり、アンガージュマンのミッションや活動を身をもって知ってもらえる貴重な機会ともいえます。

ボランティア活動の裾野が広がるなかで、若い年齢層の参加も増えています。特に利用者と同年代になることもあり、支援する側の気持ちが強くなると、あつれきが生じることもあります。自発性を伴う活動ではありますが、この年代には教育的な配慮をしていくことが不可欠で、継続的な活動を行うボランティアとして育成することも大切な視点だと思えます。(石川隆博)

相談・カウンセリング 連続カウンセリングの意義と課題

この夏は10代1人、20代3人(訪問1人含む)、30代1人、計5人の連続カウンセリングを実施している。1週間に一度である。通常は1カ月2回程度だが、今回はそれぞれに解決したい課題が明確になっているので、5～6回のカウンセリングを集中させた。

連続カウンセリングの効果は3つである。「話を楽にできるようになる」「自分の課題を理解する」「カウンセラーのアドバイスに耳を傾ける」

各自の悩みや人間性はバラバラだが、基本的なコミュニケーションの課題は同じである。寡黙に真面目に自分自身を責めるコミュニケーション。「怠けている自分」「話せない自分」に陥っている。語らなかつたAさんが「世の中を受け入れ過ぎた」と課題を語り、20代のBさんが「自分はしっかりできているんだ」と自己を肯定し、10代のCさんは「9月からは」と展望を語り始めた。自分に気づく、自分を知る。簡単なようだが、結構難しい。人と話す中で自分に気づくことが多い、これが人間である。社会に生きる人間の姿？

プライバシーや育ちのことは人には言いたくない、当然ですね。しかし、思い出してください。親や知人や友人に、「聞いてほしい」「どうしたらいい」と声を発してきたものです。

今、近くの人に言えないのであれば、遠くの見ず知らずの人に声を発するのも不可欠です。アンガージュマンへお電話を、メールを下さい。担当：滝田衛 046-801-7881 engagement@angelicsmile.com

キックオフ 研修生を見かけたら…&さくらんぼまつり

今月から、スタッフと研修生で研修についての意見交換会を行うことにしました。

初回である今回は、業務内容の不明点や改善点について話し合いました。日頃から気になっていた、雑誌リストにチェックが入っていなかったり、データの更新がされていないことについて研修生に聞くと、「教わっていない」という返事が。それらの作業の必要性について、改めて説明すると共に、「教えてもらう」のを待つのではなく、「自分から気付いていく姿勢」が重要であることを伝えました。

店内のレイアウトについても、事務作業の効率を上げるためには改善が必要との意見が出ました。これについては、日々の業務の中で実際の動きに合わせて変更していく必要があります。

書店の仕事を円滑に進めるため、今後も少しづつ見直しを進めたいと思います。(石川藍)

harucafe 再スタートに向かってgo！！

本館(?)に引っ越して4ヶ月が過ぎようとしています。

アンガージュマン新体勢の挨拶回りもほぼ済んで、全体的に落ち着いた感がただよい始めました。

さぁそろそろharucafeの番です。スタッフも研修生もヤル気充分。協力者の手を借りて、飲食店としての許可をとるべく着々と改装中です。スイングドアも手洗い器も、前harucafeのものを大切に保管していたものが取り付けられました。あと一息です。

みなさん、新harucafeに是非お茶をしに来て下さいね。(萩原恵子)

8/11(土)の山形物産市では、世間はお盆休みという事もあり商店街に人が殆ど歩いていない状況でした。この時期の山形は、色々な夏野菜が多く、枝豆等も美味しい時期です。それを知る常連の方々や近所の店主の方々が買いに来て下さいました。お盆等のシーズンは日程から外して他の日に市を設定する必要があるのと、一般の方へ如何に物産市を認知してもらう為の広報が必要だなと感じました。(石川藍)

8/22日(水)ラッピング講座は、参加者が1名だった事もありはるかぜ書店内のテーブルにて行いました。普段行う学習スペースとは違い、書店内でやる事はお客様からの視線・プレッシャーを感じながらの作業になって来ます。参加したAさんは手元に余計な力が入り、手が上手く動かなかつたり、紙を破くアクシデントもありました。慣れてきてもう少し肩の力が抜ければ、その状況も楽しめるのでは？ なんて感じました。自分自身も研修生の頃はこんな感じだったのかな？ と思い、少し笑みがこぼれました。(石川藍)



教育コラム 第2回 いじめと性格直し

通学路でよく見かけるカバン持ち。いじめの場合、必ずカバンを持たせたい人間を絞っている。ジャンケンでその子が勝たないように、「後出し」「そろってない」「もう一回」等。合理的理由はいらない。何が何でもターゲットの子に荷物を持たせようとジャンケンを続け、その子にカバンを持ち続けさせるのだ。

ある日の学級会。各班が今日を振り返り反省を言う。ある班長が「　　さんは忘れ物が多く注意を聞かない。性格が悪いので学級会の議題に」と言った。他の班からも拍手が起こる。司会者が「では　　さんの性格を直す学級会に賛成の人は手を上げてください」と。賛成多数で可決され議長である学級委員の登壇。学級会で1人の性格を問いただす、形式民主主義の巧妙ないじめである。教師はどうする？ 班長の役割は班員を守ること。班員を守れない班長は退場である。学級の子どもを守るのは担任である。守れない担任も退場だ。生徒はイエローカードだが、教師はレッドカードである。

一人の人間の性格を問題にしてはいけなない。忘れ物が多い人の性格直しは、学級や教育の課題ではない。こういう発言を控えたいが、忘れ物を通してどういう人間や関係を育てるのか、互いに学び合う子ども集団を育てることである。「何の教科の忘れ物が多い」「班や学級が取り組めることは」「忘れ物が少ない人の工夫は」等を学級会で話し合い、班や学級の取り組みに生かすことである。その結果、忘れ物を少なくする取り組み、教材を学級に置ける工夫、忘れ物が多い人への援助、更に忘れ物に神経を使う教師側の指導改善などが進む。

先の学級会、どう解決するか。議長に問う。「あなたの性格が学級会の議題になったら？」と。たぶん「いやです」だ。万が一「私が悪いから仕方がない」と議長が答えたら、「もっといい方法は？」と問い直す。答えがなかったら教師が提案する。「忘れ物を少なくする学級の取り組みを話し合おう」と。

(滝田衛)